

# 管内の畜産農家の動態と 家畜保健衛生所業務の 将来予測

県西家畜保健衛生所  
忍足佑子

# 【はじめに】

- ・全国的に畜産農家が年々**減少**、今後も減少が**継続**か
- ・畜産農家が対象の家保業務 ⇒ 戸数や飼養頭羽数の**影響大**

## 畜産への新規就農及び経営離脱に関する調査（令和5年）

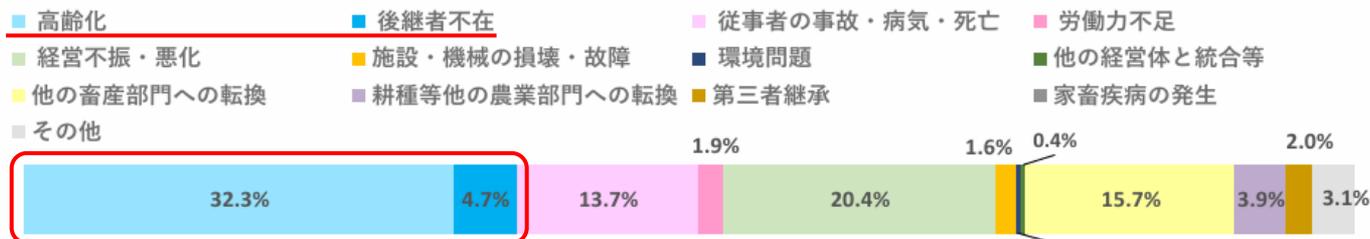
### （1）酪農経営からの離脱要因①（全体）

#### 1. 過去5年間の離脱農家戸数の推移

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
離脱戸数	536	504	472	794	700
参考 全農家戸数※1	14,400	14,000	13,500	13,300	12,600
参考 離脱割合(%)※2	3.7	3.6	3.5	6.0	5.6

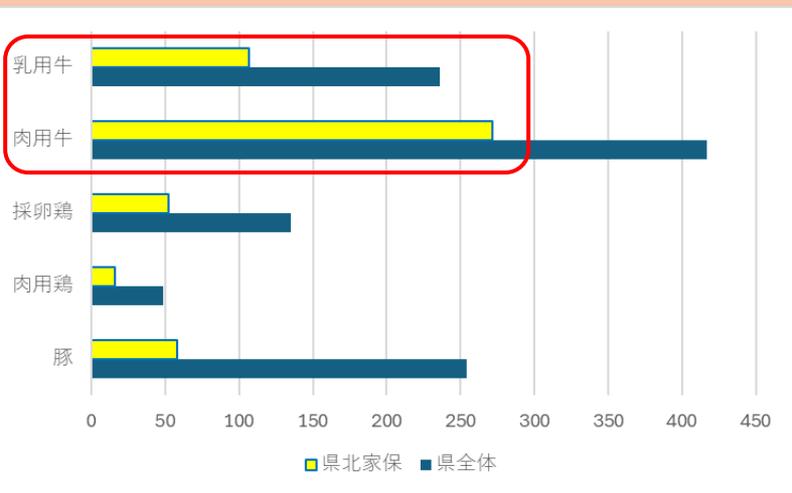
※1 農林水産省「畜産統計」（各年2月1日現在）  
※2 全農家戸数に対する離脱戸数の割合

#### 2. 酪農経営からの離脱要因（令和5年）

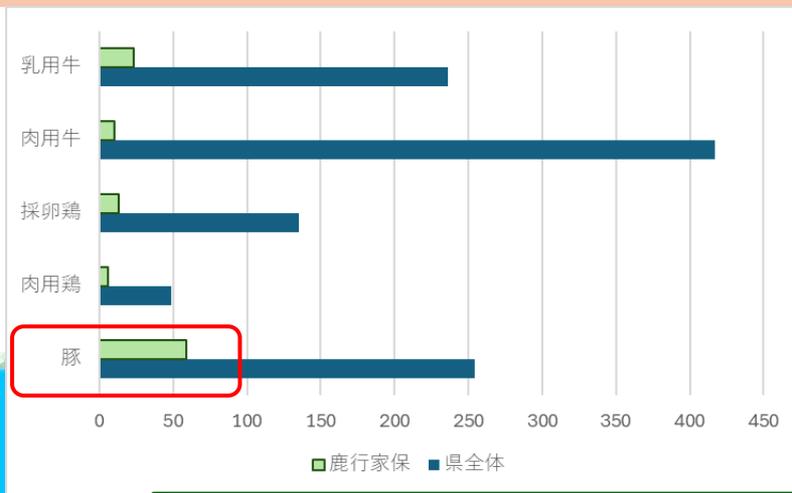


県西家保管内の畜産情勢（畜産農家数・頭羽数など）と家保業務内容の変化の予測を試みる

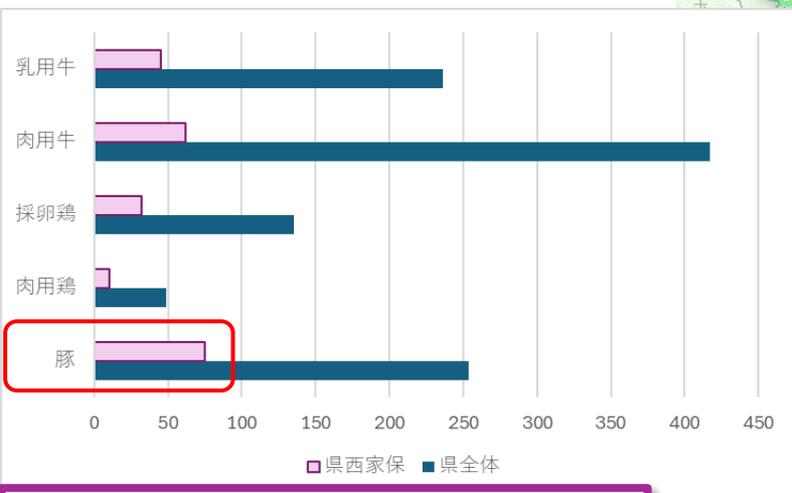
# 【はじめに】茨城県の家畜飼養農家分布



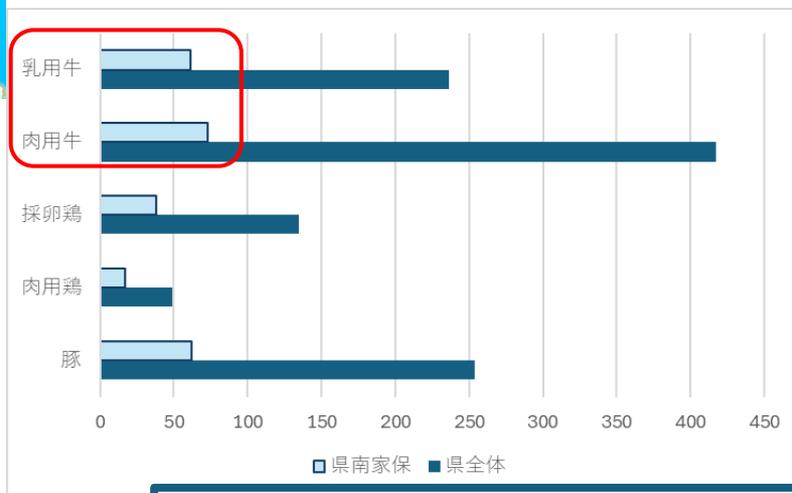
県北：牛飼養農場が多い



鹿行：豚飼養農場が多い



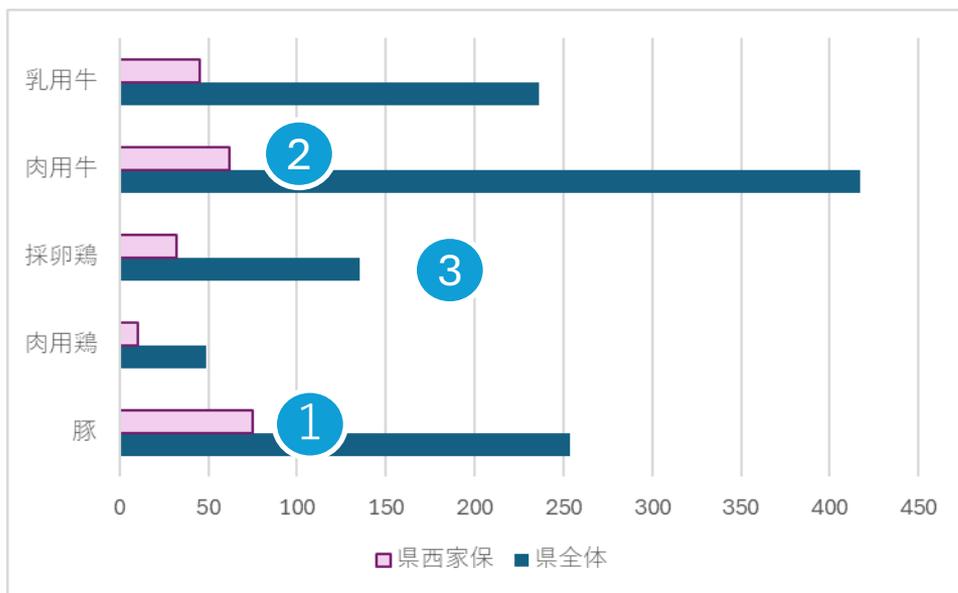
県西：豚飼養農場が多い



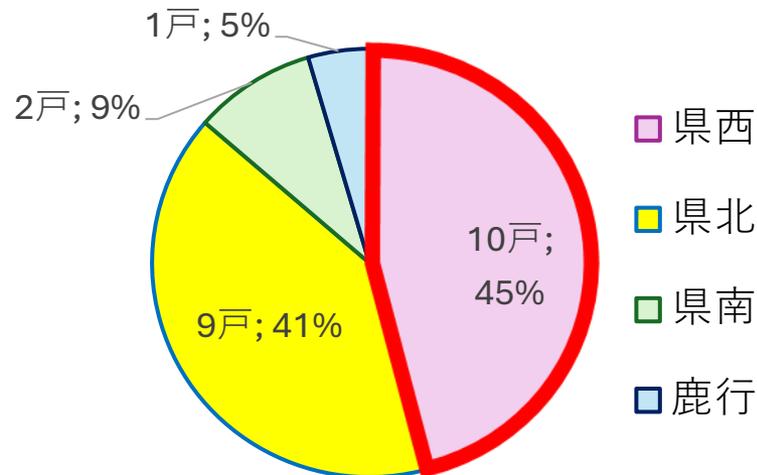
県南：牛飼養農場が多い

# 【はじめに】 県西地域の畜産農家の特徴

- ① 県内でも豚飼養農家数が多い地域
- ② 肉用牛は肥育農場が大部分を占める
- ③ 採卵鶏農場は全体の25%程度だが、  
県内採卵鶏大規模農場(20万羽以上)  
22戸中10戸が県西地域に所在する



家きん大規模農場(20万羽以上)の農場数



# 【調査の内容】

【調査①】 県西家保管内の畜産の状況の変化を予測する

【調査②】 県西家保の業務に起こる変化を予測する

# 【調査①】方法

## 畜産農家の年齢情報の収集

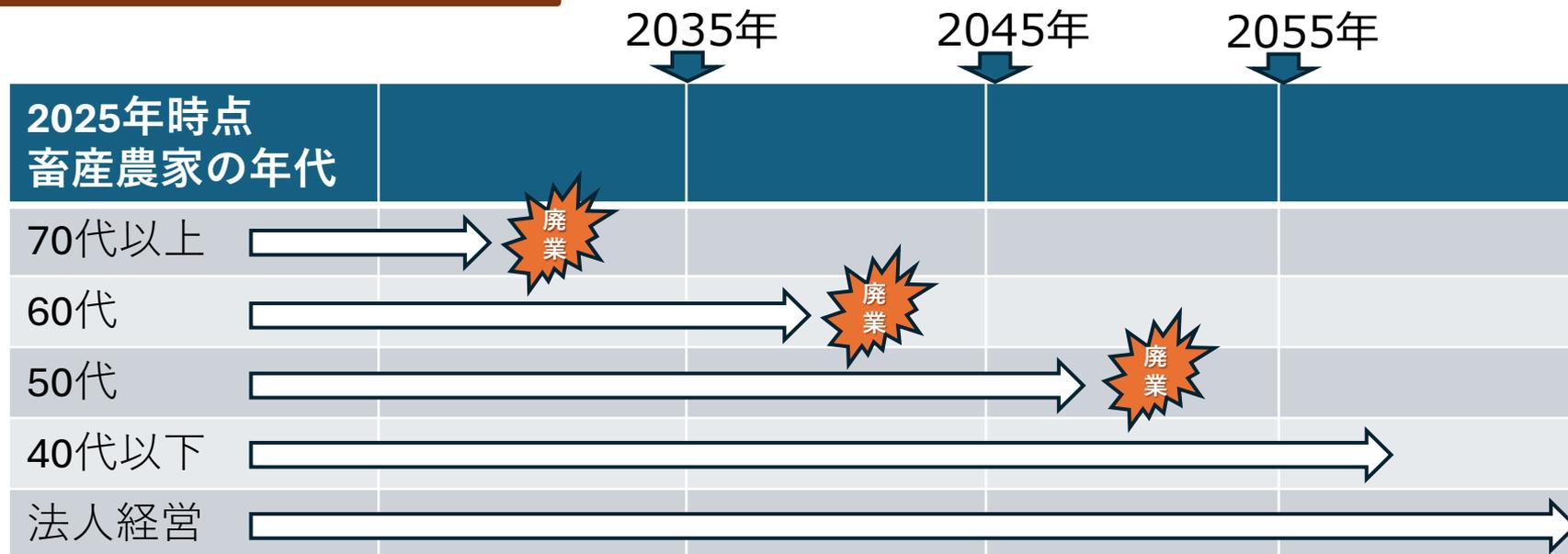
- ・ 農場巡回時などに畜産農家から聞き取り
- ・ 農場巡回した家保職員が年代を推測
  - ※後継者がいる場合は後継者の年代をデータとして使用
- ・ 法人経営の農場では代表者の年齢は考慮しない

## 飼養頭羽数、飼養形態、農場位置の情報

- ・ 定期報告書から収集

# 【調査①】方法

## 10年単位での畜産農場数の推定

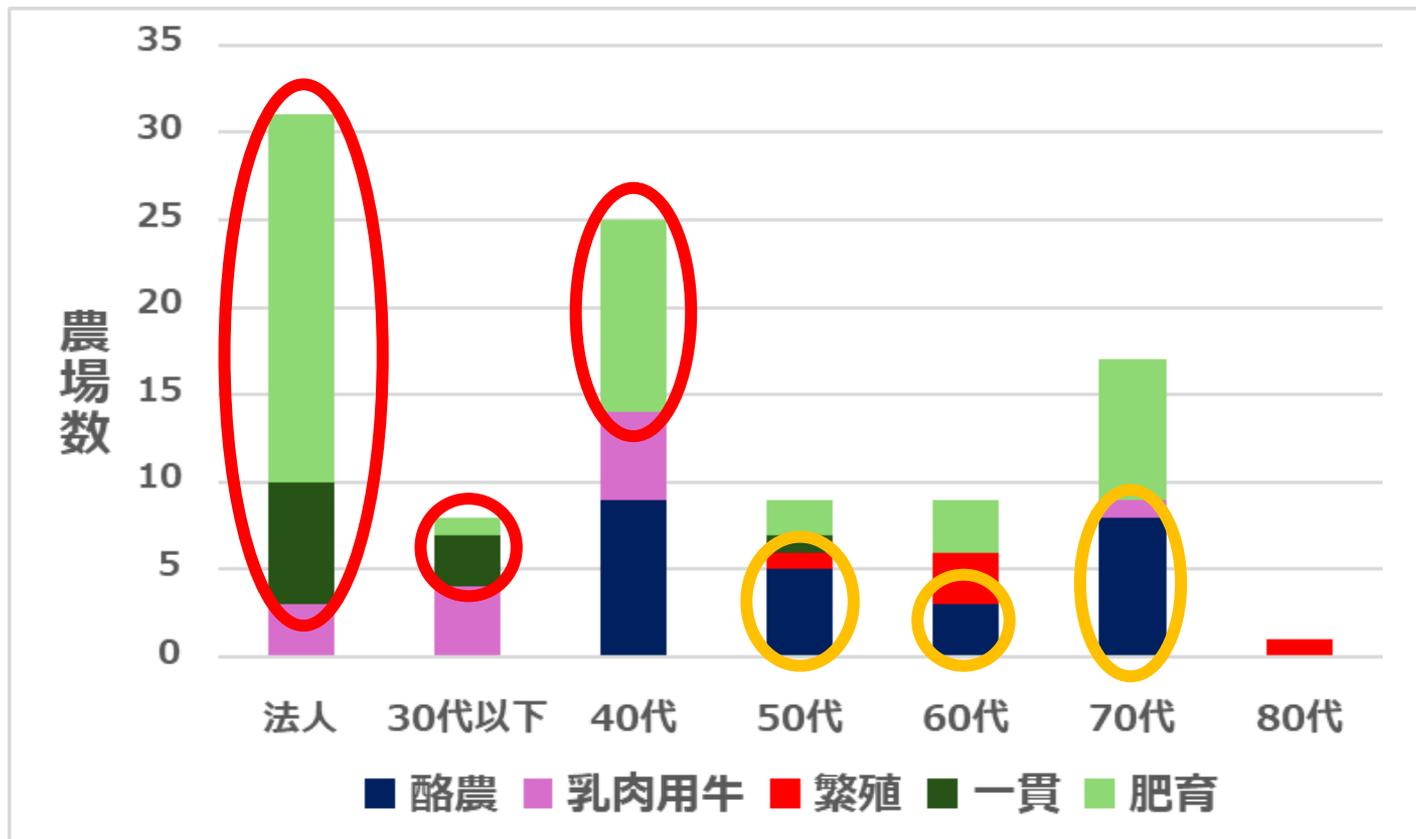


- ・ 農家は80歳に達した時点で廃業するものとする
- ・ 法人経営の農場は30年後も稼働し続けるものとする
- ・ 廃業まで飼養頭数及び飼養形態は変わらないものとする

※新規の就農は管内の状況を鑑み無いものと仮定する

# 【調査①】結果 (牛)

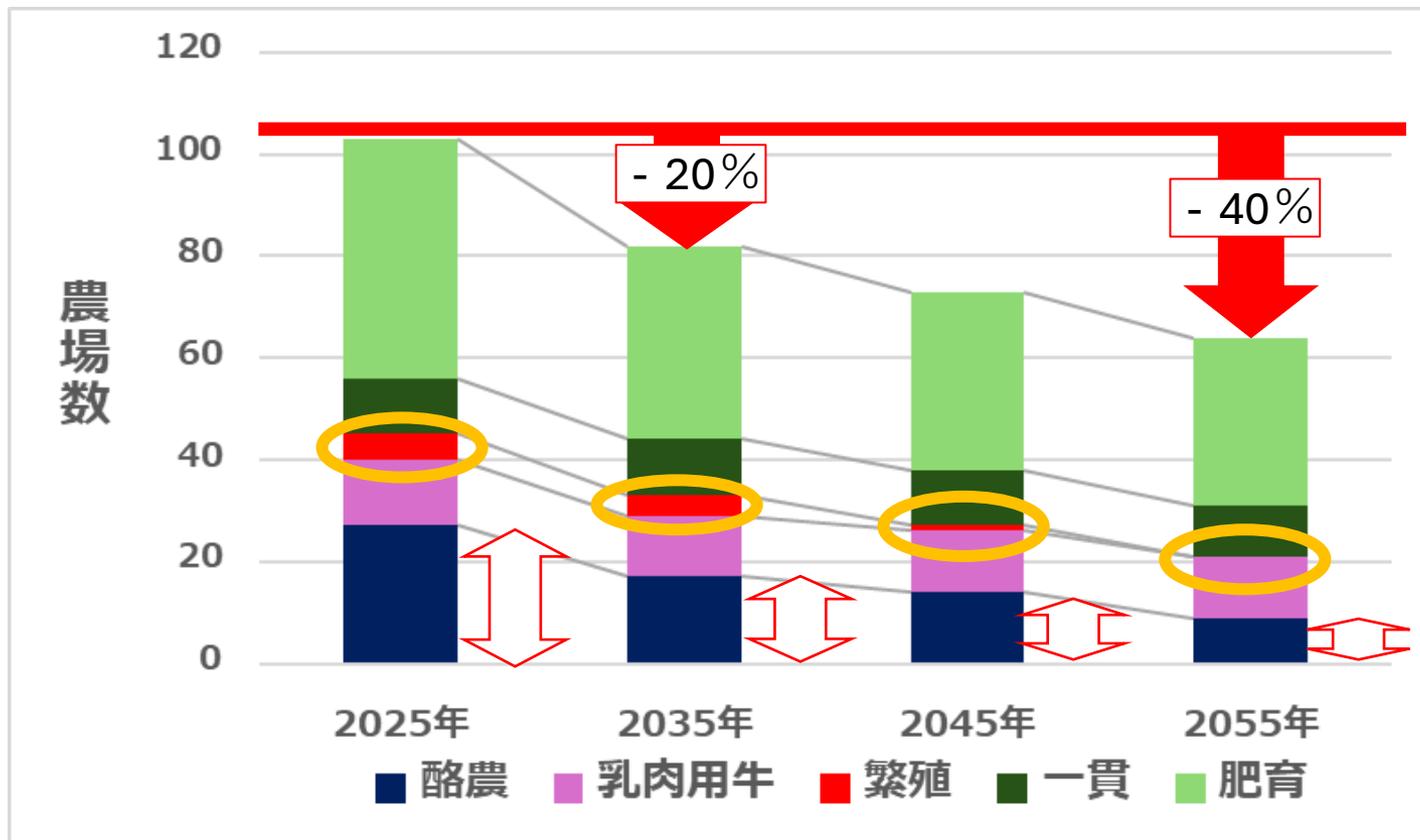
管内の牛飼養農家の年代分布 (2025年時点)



- 肥育農家、一貫農家は法人、40代以下に多数
- 酪農は50代以上多い

# 【調査①】結果 (牛)

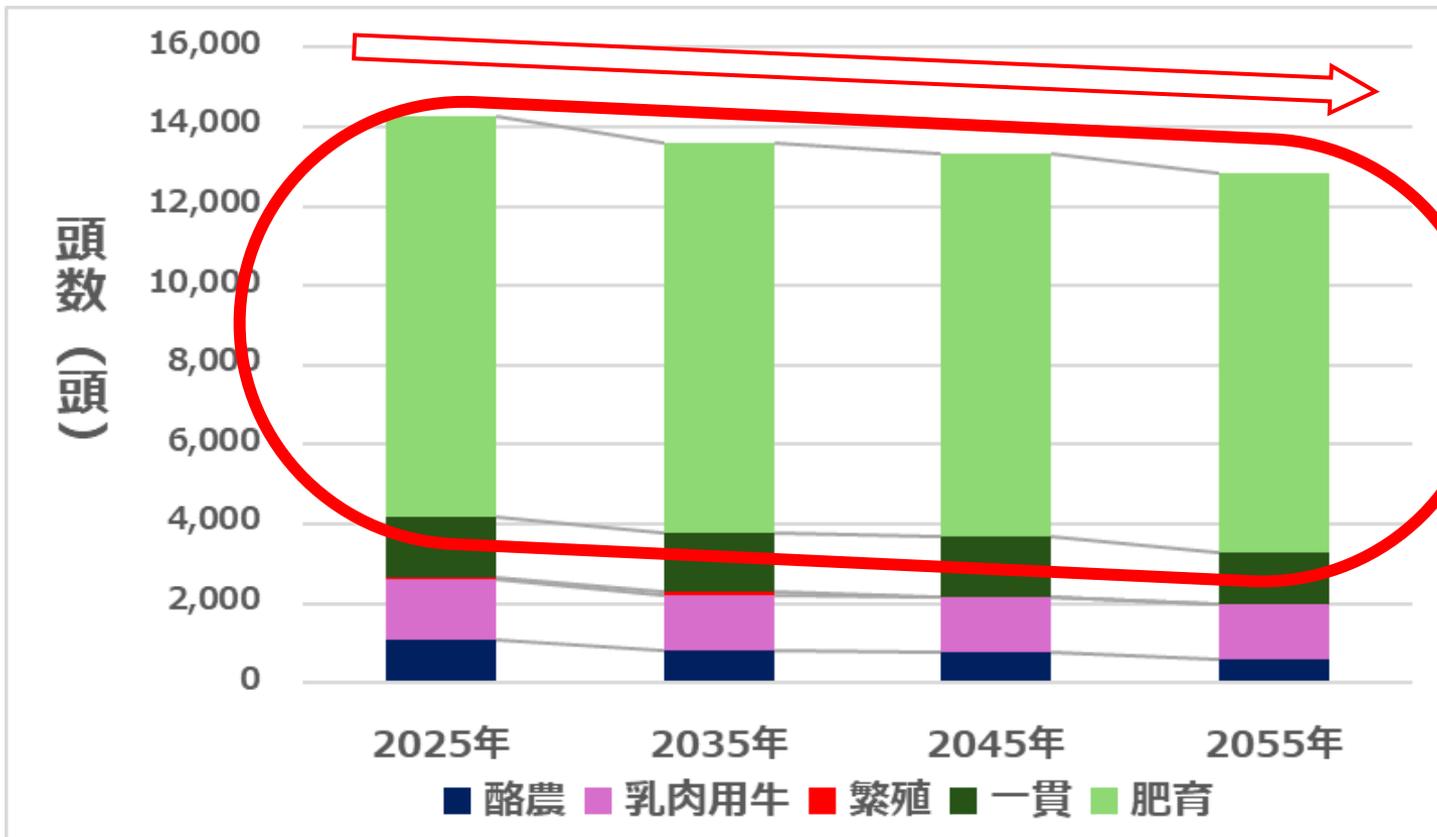
管内の牛飼養農場数の変動予測 (今後30年)



- 10年後に約2割、30年後に約4割の減少か
- 繁殖農家は消滅か
- 酪農農場は10年間隔で大幅減

# 【調査①】結果（牛）

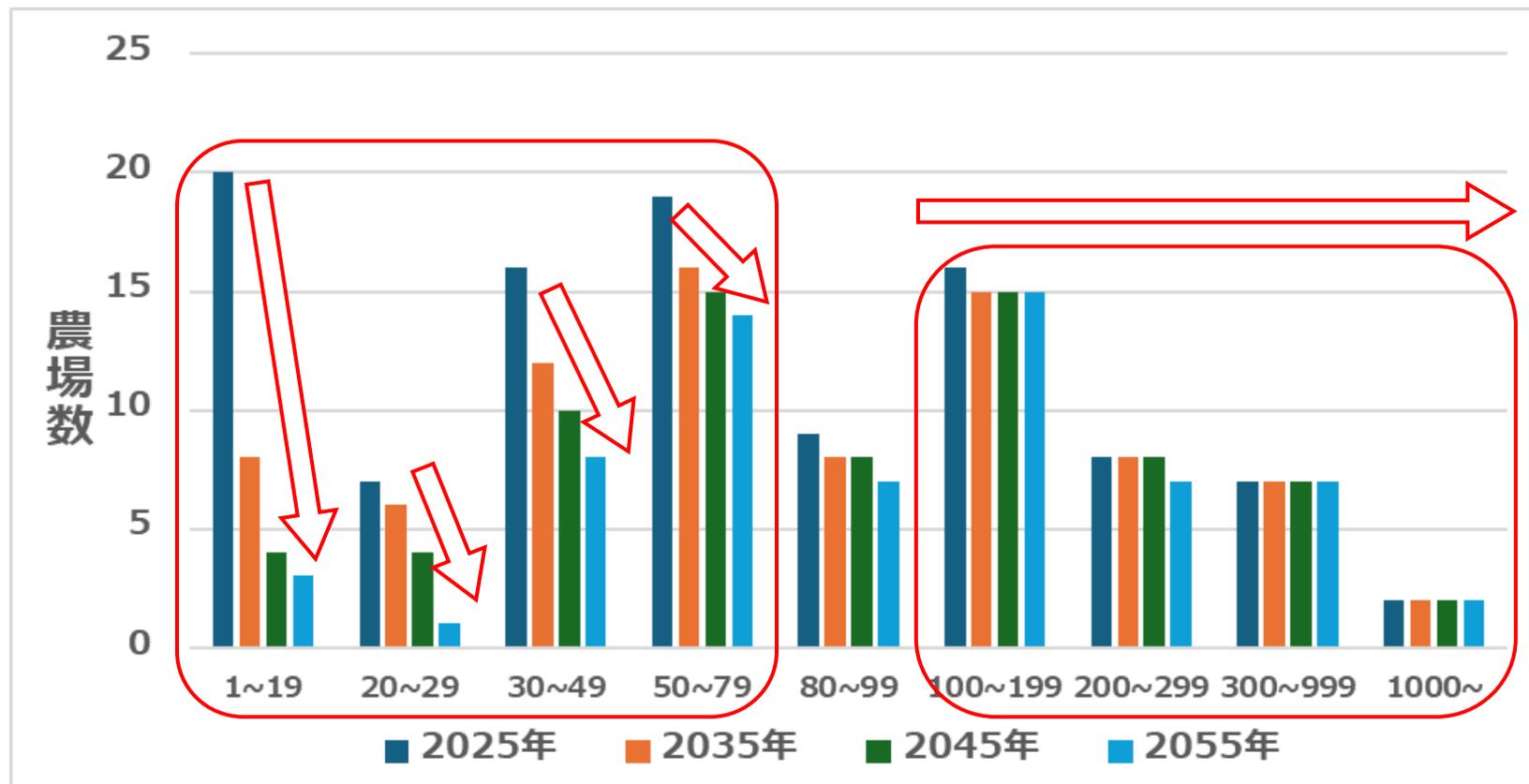
管内の飼養牛の総頭数の変動予測（今後30年）



- ・ 頭数の減少は緩やか
- ・ 肥育農場の牛が大多数で維持か

# 【調査①】結果（牛）

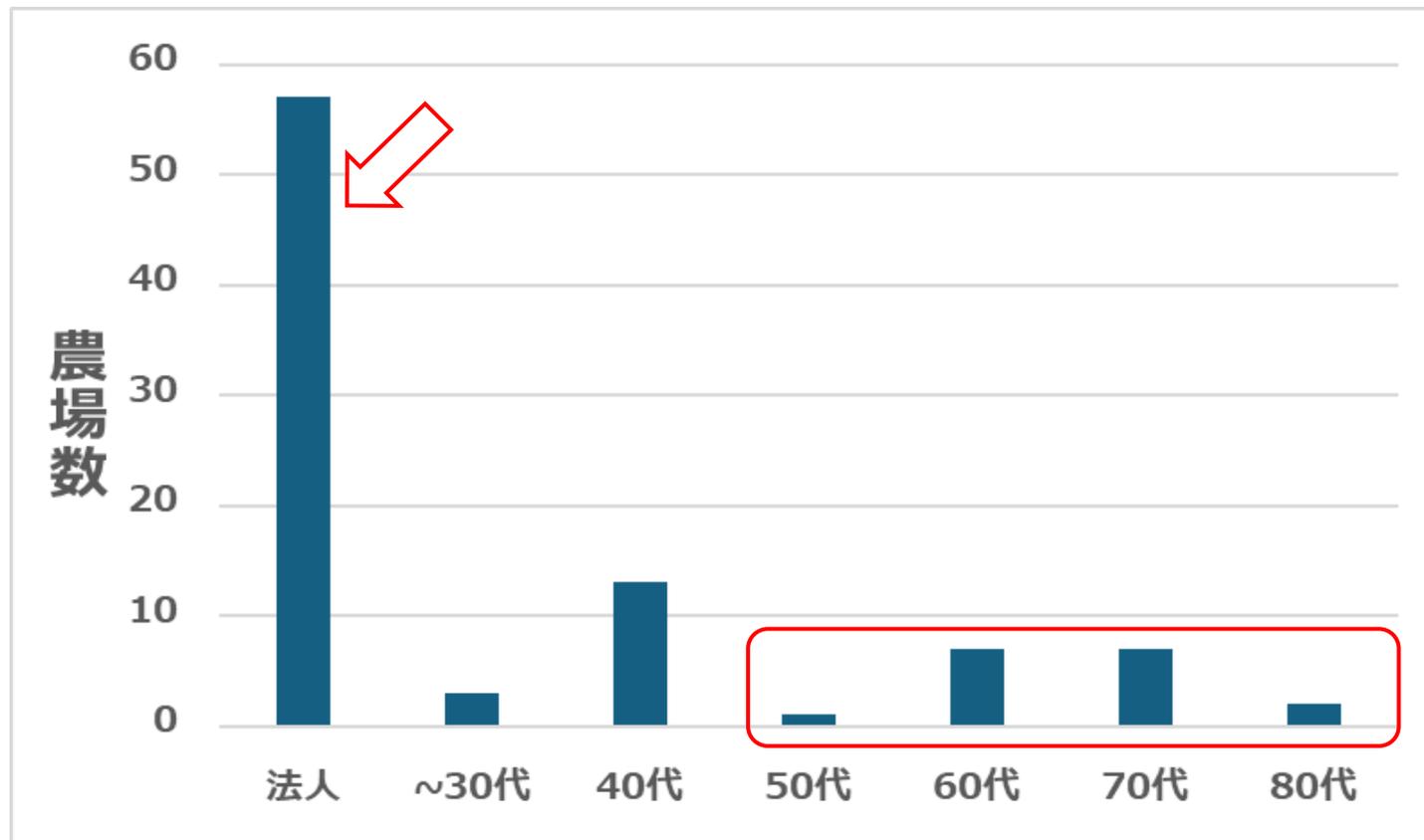
管内の飼養頭数ごとの農場数の変動予測（今後30年）



- ・ **小規模農家の減少**が顕著か  
(農場大幅減、頭数ほぼ横ばいの乖離の理由)

# 【調査①】 結果 (豚)

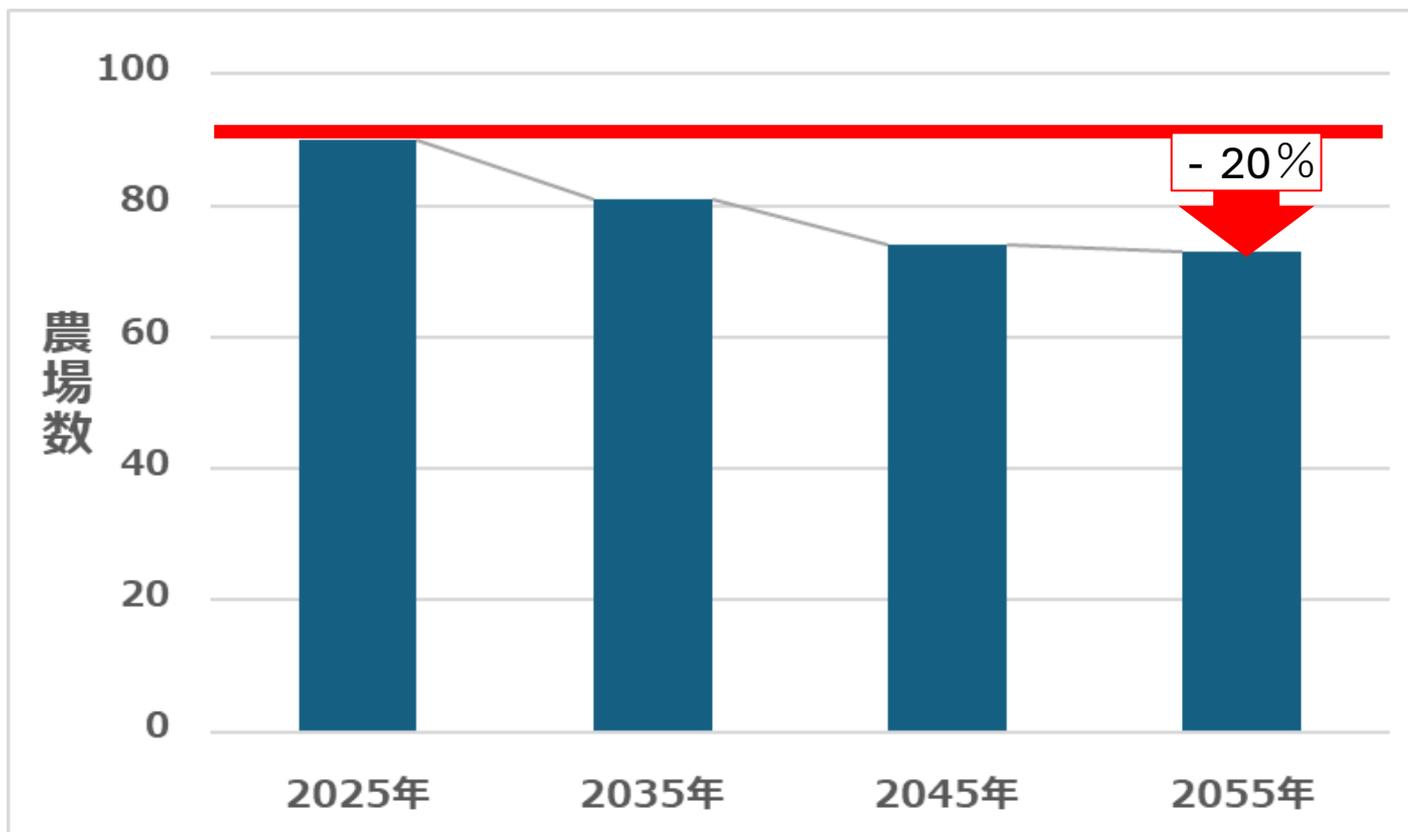
管内の豚飼養農家の年代分布 (2025年時点)



- 全体の約6割以上が法人経営
- 50代以降の割合は2割未満

# 【調査①】 結果 (豚)

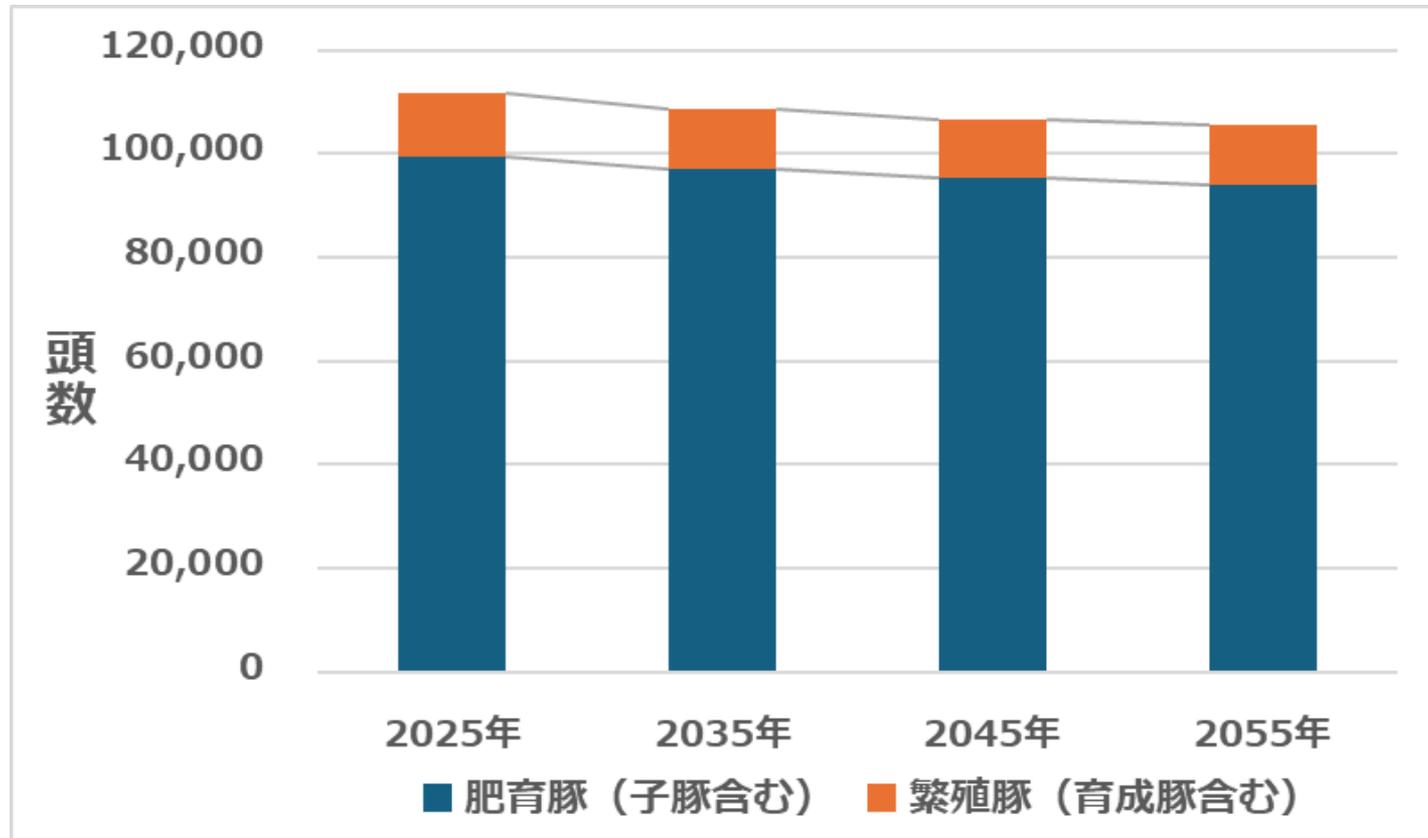
管内の豚飼養農場数の変動予測 (今後30年)



- ・ 今後30年で現在の約8割になると予想

# 【調査①】結果（豚）

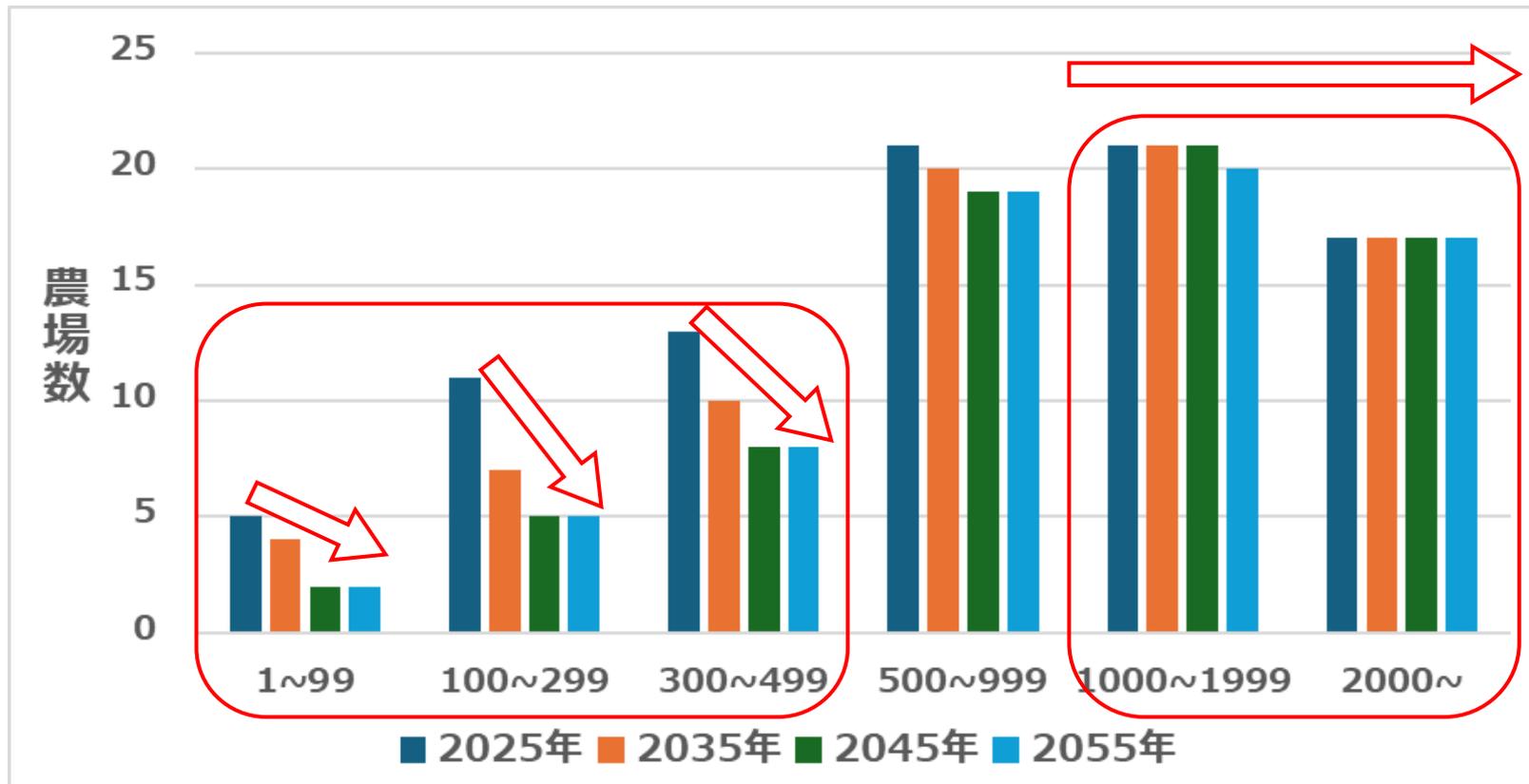
## 管内の飼養豚の総頭数の変動予測（今後30年）



- 管内の飼養豚の総頭数は10万頭以上を維持か
- **ほぼ横ばいで推移**すると予想

# 【調査①】結果（豚）

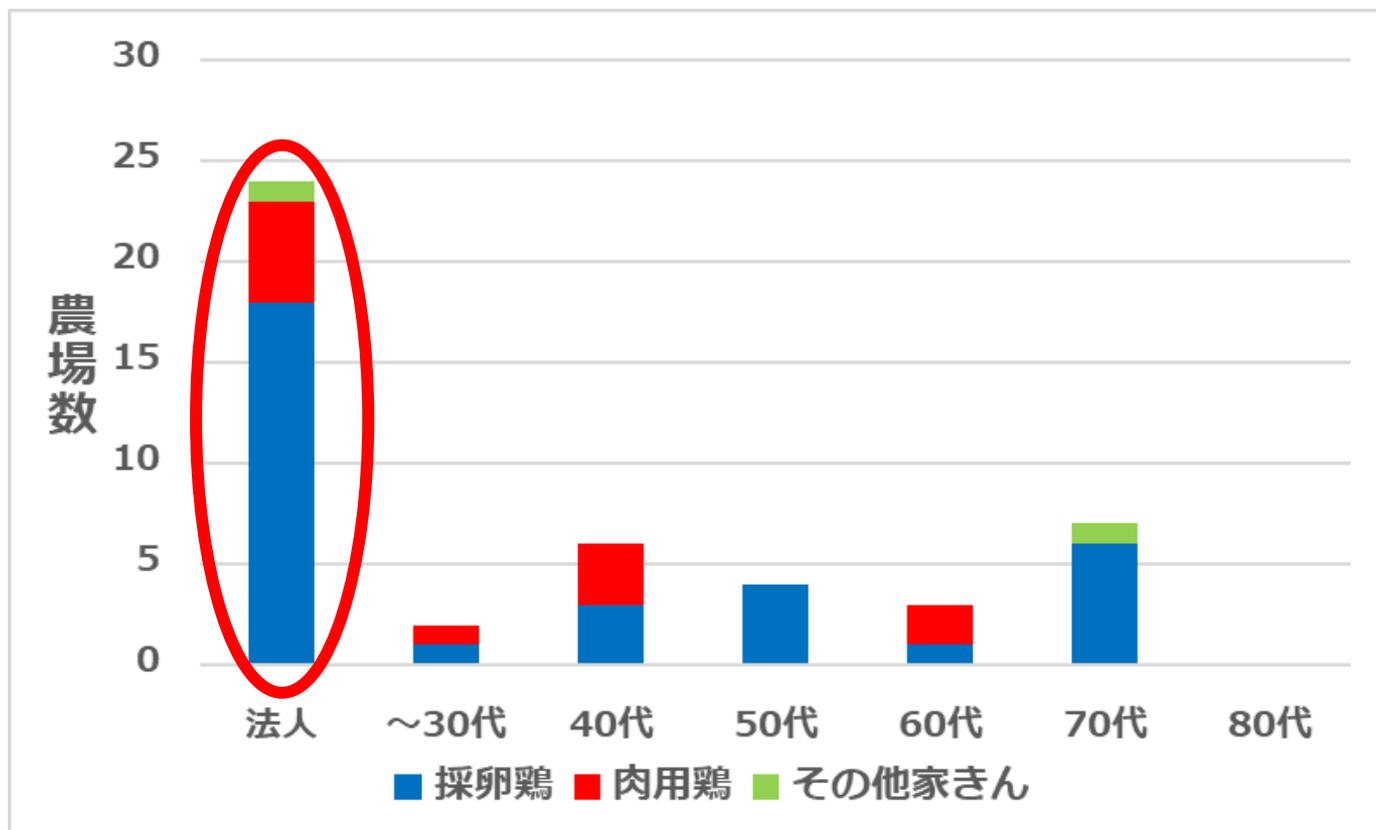
管内の飼養頭数ごとの農場数の変動予測（今後30年）



- ・ 牛と同様、小規模の農場の減少が顕著と予想

# 【調査①】結果（家きん）

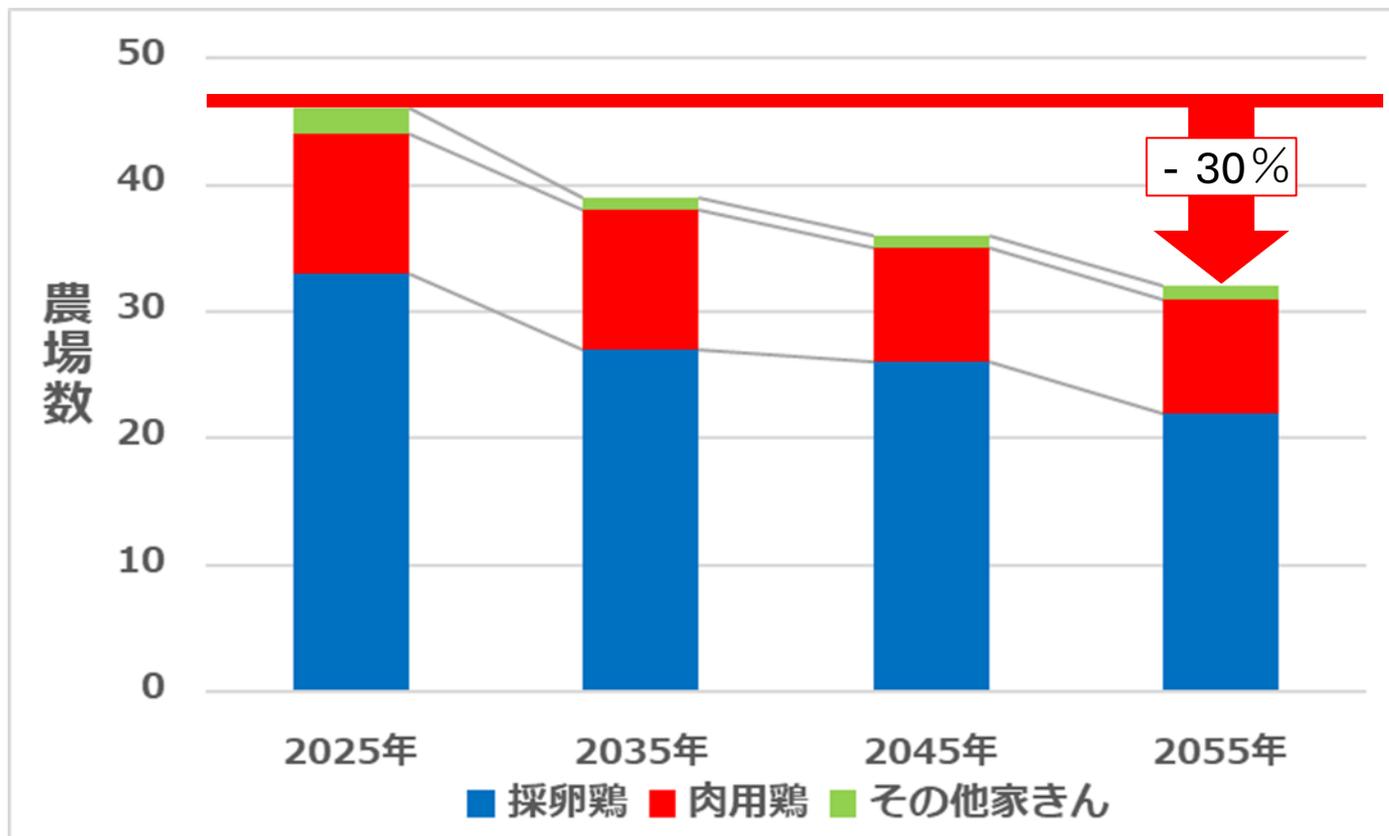
管内の家きん飼養農家の年代分布（2025年時点）



- ・ 法人経営が約半数
- ・ 採卵鶏農場が多数派（約7割）

# 【調査①】 結果 (家きん)

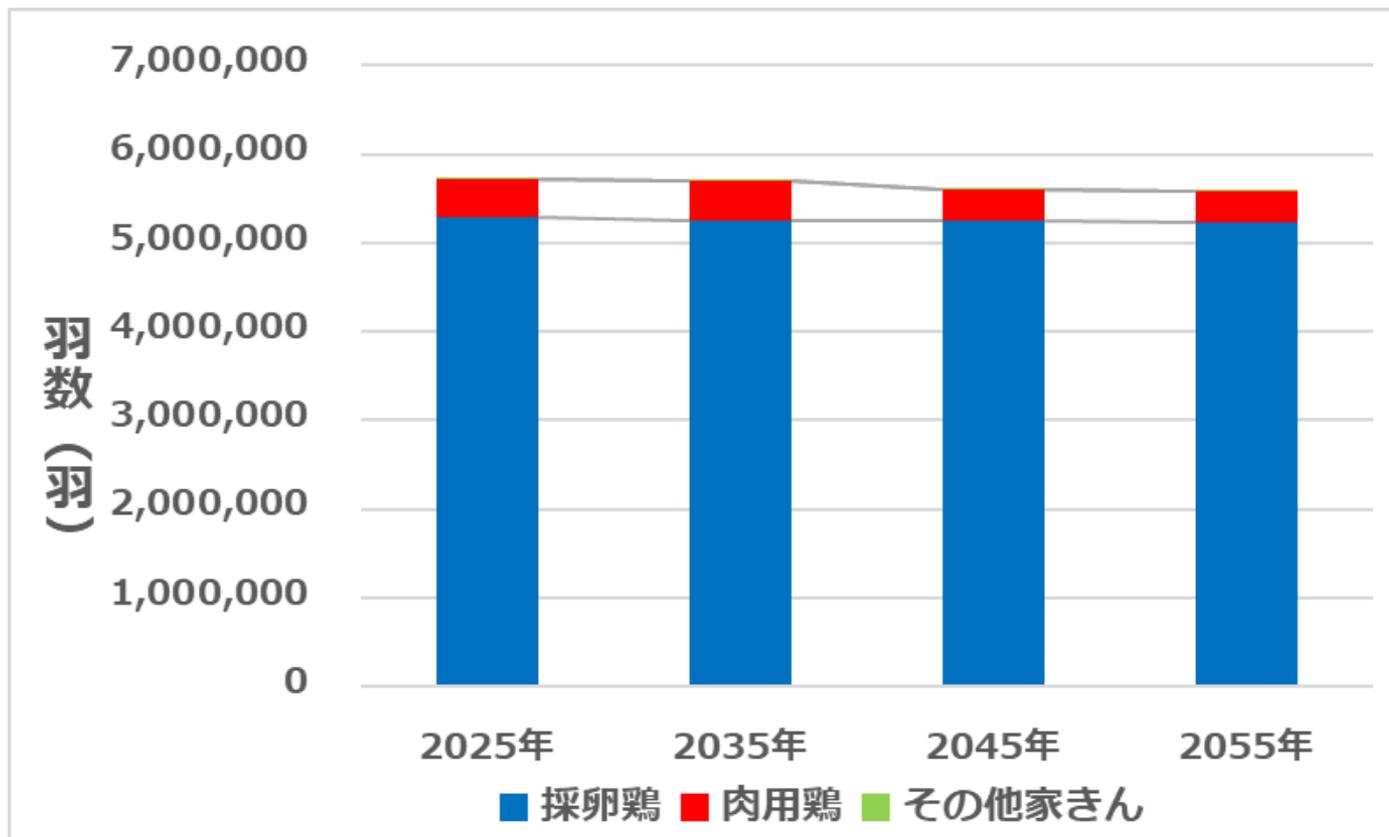
管内の家きん飼養農場数の変動予測 (今後30年)



・ 今後30年で約3割減少か

# 【調査①】結果（家きん）

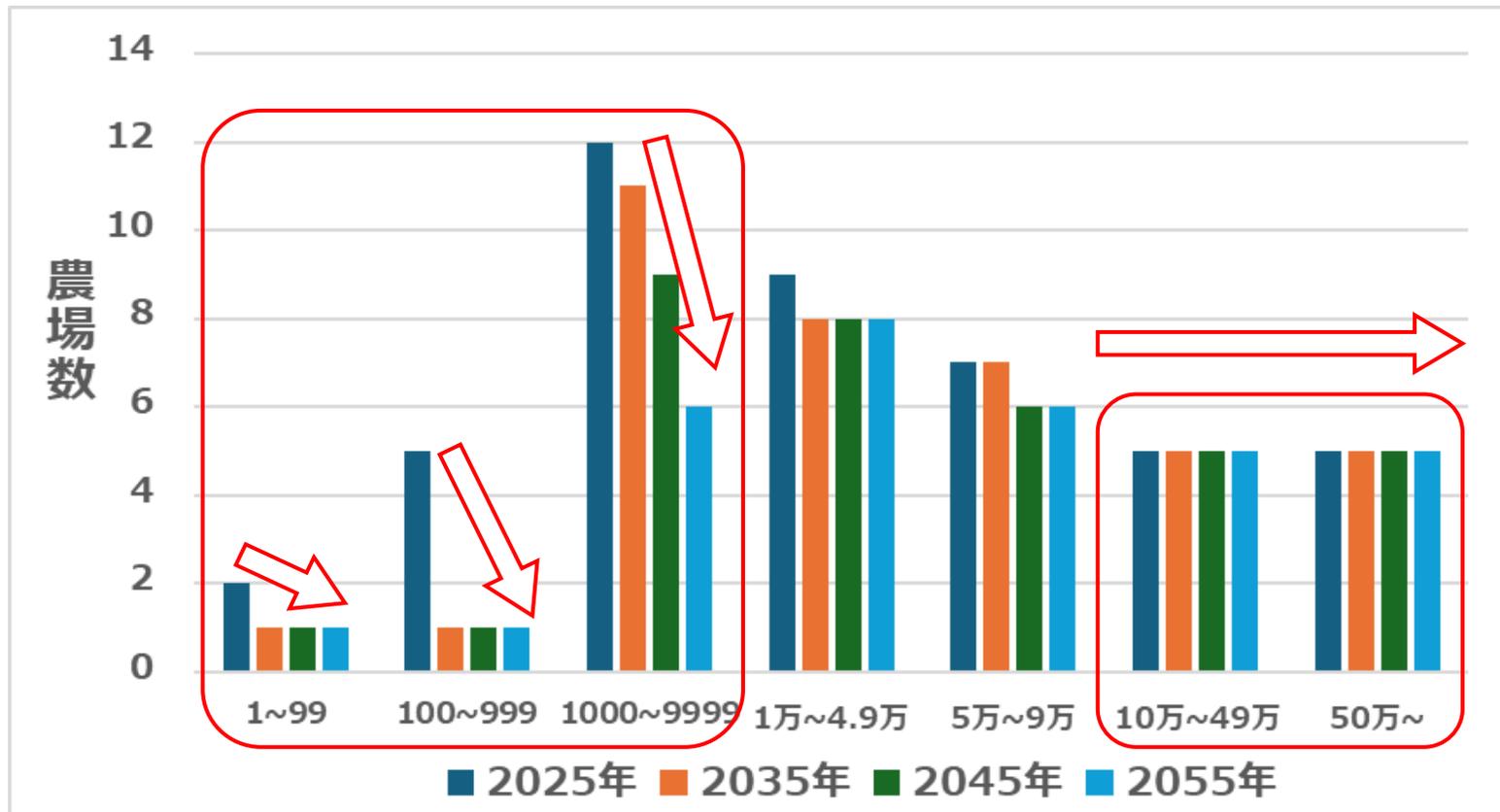
管内の飼養家きんの総羽数の変動予測（今後30年）



- ・ 総羽数は、**ほぼ横ばいで維持される**と予想

# 【調査①】 結果 (家きん)

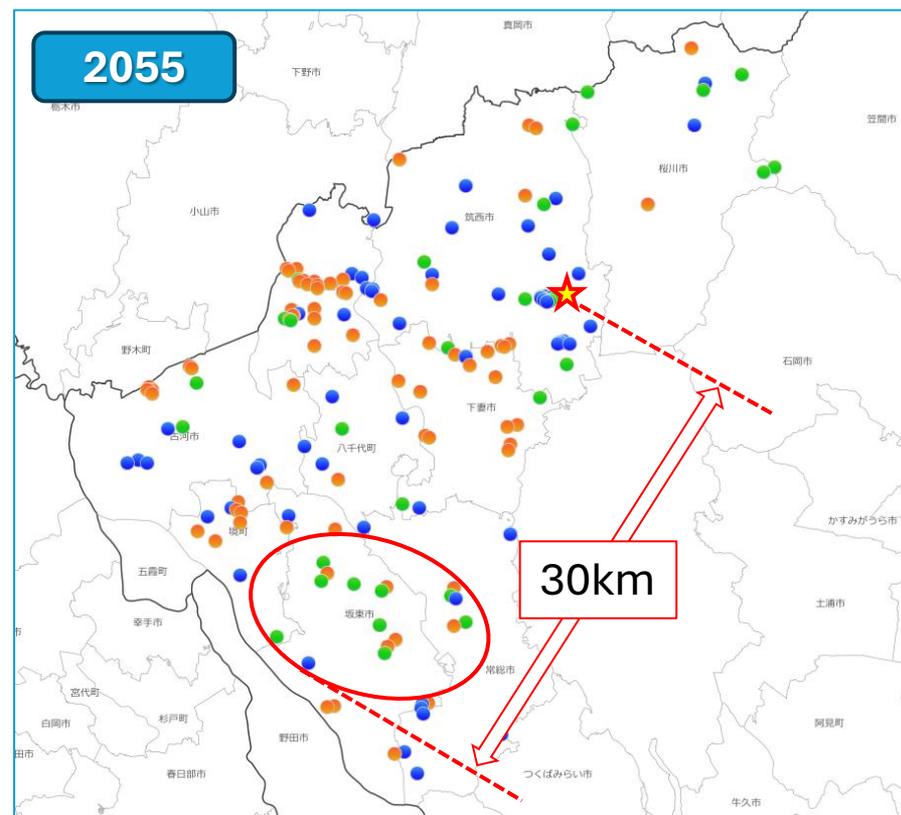
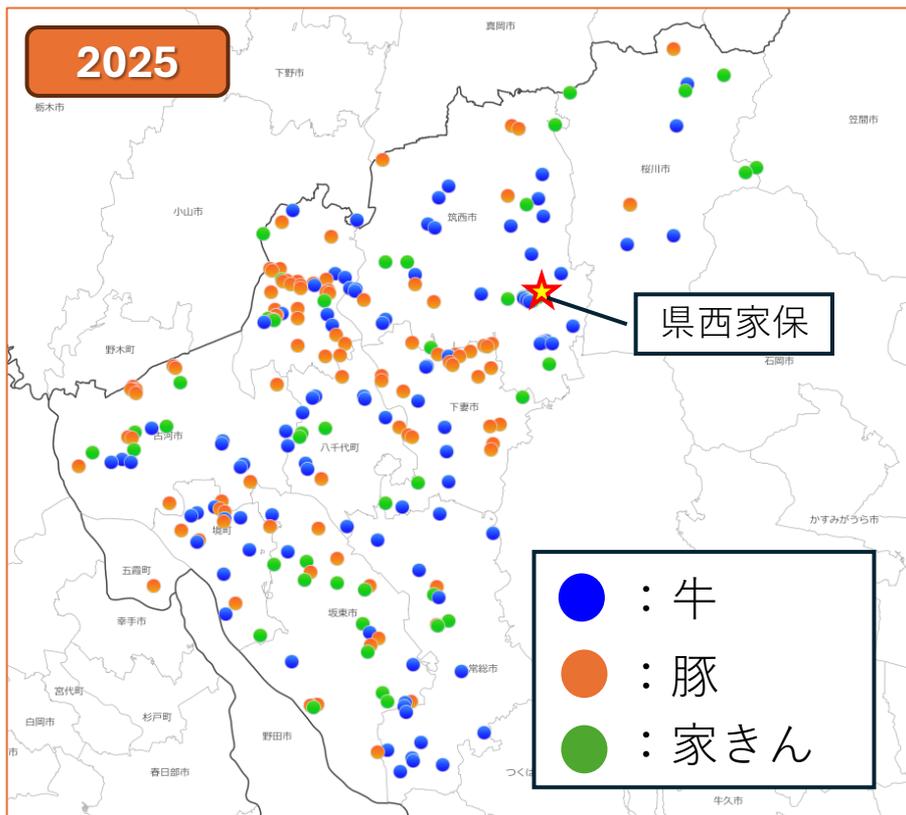
管内の飼養羽数ごとの農場数の変動予測 (今後30年)



- ・ 小規模の家きん農場が顕著に減少か
- ・ **10万羽以上飼養の10農場は存続する**と予想

# 【調査①】結果（牛、豚、家きん）

## 県西家保管内畜産農家の地理的分布の変動予測



- ・ 全畜種とも万遍なく減少し、業務エリアは縮小しない
- ・ 坂東市・常総市の大規模養鶏場は引き続き残る

# 【調査の内容】

【調査①】 県西家保管内の畜産の状況の変化を予測する

【調査②】 県西家保の業務に起こる変化を予測する



◎現在の県西家保の主要な業務を整理し、調査①の結果と照らして予測

# 【調査②】結果（牛・豚・鶏）

## 小規模な農家の減少

- ・対象が減少する業務あり
- ・地域的コミュニティの崩壊懸念

## 対象農場数の減少

	2025年	2035年	2045年	2055年
牛定期検査	49	40 (82%)	34 (69%)	28 (57%)
鶏強化E列ンク	44	38 (86%)	35 (80%)	31 (70%)
牛農場立入	78	64 (82%)	55 (71%)	47 (60%)
家さん農場立入	44	38 (86%)	35 (80%)	31 (70%)
豚農場立入	90	81 (90%)	74 (82%)	73 (81%)

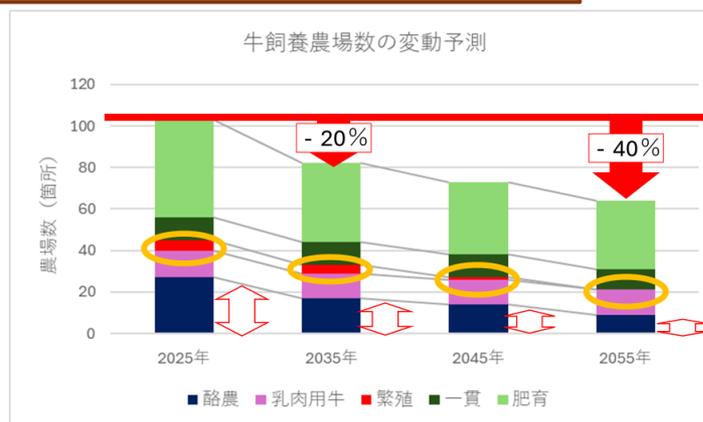
地域の畜産農家数の減少により、**地域的コミュニティが崩壊**  
**⇒家保が、より遠方の農家どうしをつなぐ機能を担う**  
(講習会、地域的な会議等)

# 【調査②】結果（牛）

## 畜産情勢の変化

- ・ 県西の肉用牛繁殖農家は消滅と予想される
- ・ 肉用子牛不足、子牛価格上昇

管内の牛飼養農場数の変動予測（今後30年）



- ・ **10年後に約2割、30年後に約4割の減少か**
- ・ **繁殖農家は消滅か**
- ・ **酪農農場は10年間隔で大幅減**

牛飼養農家では、酪農から肉用繁殖、肉用肥育から肉用一貫への**経営転換が加速する可能性あり**

⇒**受精卵による肉用子牛生産での牛伝染性リンパ腫（BLV）対策の重要性  
対応可能な獣医師不足**

# 【調査②】 結果 (豚)

## 豚の総飼養頭数の維持⇒豚熱 (CSF) ワクチン接種の継続

- ・ CSF抗体保有状況調査による適期日齢でのワクチン接種指導
- ・ ワクチン接種頭数の集計及びワクチンの安定供給

CSF抗体保有  
状況調査

CSFワクチンの  
安定供給

適期日齢での  
ワクチン接種

ワクチン接種  
頭数の集計



・ **知事認定獣医師の  
高齢化問題**

・ **CSF、アフリカ豚熱  
(ASF) 疑い時の迅速な  
検査対応が必要**

# 【調査②】結果（家きん）

## 大規模養鶏場⇒高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）対策強化

- ・防疫対応計画の見直し、分割管理導入の検討
- ・飼養衛生管理基準で指定する大臣指定地域での取り組み
- ・死亡羽数増加の通報時の緊急立入検査

### 大臣指定地域内での発生に対する準備

○飼養衛生管理基準において、大臣指定地域に所在する農場にあっては、法第30条の規定に基づく消毒方法を実施する場合に備え、準備措置を講ずるよう規定。

大臣指定地域内で鳥インフルエンザが発生した際に消毒命令等を実施（防疫指針）

(1) 地域内の農場で発生

(2) 地域内の農場に対し、  
①消毒の指示  
②塵埃対策の指導を実施



消毒薬の備蓄  
○家きん舎周辺を消毒するのに十分な消毒薬の量を確保



### 塵埃対策の準備

○入気口周辺対策の場合（換気量の低下などにより家きんの健康を害するおそれがある場合は実施を見送ることもできる）  
→フィルターや不織布の設置  
→上記設置に向けた準備（枠の設置等）



農場で実施可能な対策を考え、必要な準備を検討

○消毒薬や水の散布の場合  
→動噴などの散布に必要な機材の準備



### 大臣指定地域に所在する農場周辺の野鳥等の生息状況の把握等（飼養衛生管理基準）

- ・農場周辺の野鳥等の生息状況の把握
- ・鶏舎の屋根や開口部付近の野鳥が止まるような構造物へのテグスや鳥よけの設置などの農場内の野鳥誘引防止対策の実施
- ・地域的な実施が必要となる野鳥誘引防止対策の検討



家畜の所有者

- ・周辺の林にカラスを追い払うことが必要。
- ・ため池に飛来するカモの誘引防止が必要。

### 把握した情報を基に地域一体となった対策（指導等指針・防疫指針）



- ・カラスの追い払い（状況によって巢の撤去）
- ・ため池への忌避テープの設置や水抜きなどの対策の実施を関係者が一体となって検討



大規模農場でのHPAI発生予防に特化した高度な防疫業務が継続する見込み

⇒HPAI防疫に関する高度な業務は個人よりチームで対応

# 【今後の展望】

## 牛飼養農家の経営転換を支援する疾病対策業務

- ・ 肉用繁殖農家の減少により酪農家や肉用肥育農家での肉用子牛生産が加速した場合、子牛管理や疾病対策の重要増か
- ・ 肉用肥育牛で問題となっているBLV感染予防対策を強化

## 豚飼養農家の地域ぐるみの疾病対策業務

- ・ CSF対策は、養豚農家、知事認定獣医師、家畜商、と畜場等の連携が重要であり、地域ぐるみの対策のハブの役割
- ・ PRRS等の慢性疾病は地域レベルで清浄度を上げる必要あり

## 大規模養鶏場でのHPAI発生予防指導業務

- ・ 高難度化するHPAI発生予防指導は喫緊の課題
- ・ 大臣指定地域でのHPAI対策は地域内の養鶏農家が自主的な取組に移行できるよう家保が中心となる伴走型支援が必要